

科目名	コンピュータ応用演習			科目ナンバリング	C1012LYZ012
担当者氏名	佐竹 邦子, 稲富 恭			担 当 形 態	複担
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 選	開講年次・開講期
					1 年 ・ II 期

《授業の概要》

保育の現場へのICT(コンピュータ等を用いた情報通信技術)の導入が急速に進行しており、ICTを用いた業務の効率化、データの利活用はますます重要度を増している。またビッグデータ、AIといった技術の利用により、より園児の個性を大事にした保育が可能となっている。本授業では社会状況に応じたデータやAIの利活用について学ぶほか、各種アプリケーションソフトについても「コンピュータ演習」で学んだことをベースに習熟度を高めデータの利活用ができるようになることを目指す。さらにAIやデータサイエンスは協調、対話、他者理解といったコミュニケーションと深く関連しており、建学の精神である「和」の実践的手段であることを理解する。

《テキスト》

テキストは使用しない。適宜プリントを配布する。

《参考図書》

適宜授業内で示す。

《授業外学習》

【予習】「コンピュータ演習」(履修済)で学んだ内容を復習する。前回授業の操作のポイントをまとめる。

【復習】授業で示された課題に取り組む。また授業内で学んだ内容を繰り返し行い、習熟度を高める。何度も繰り返し、操作に慣れることが重要である。できるだけコンピュータに触れる時間を持つようにすること。

《学習状況・理解度の確認》

- ・提出課題については個別にコメント・指導を行う。
- ・基本的な知識について小テストを数回実施する。
- ・複数の提出物についてはプレゼンテーション・講評を行う。

《備考》

- ・1回目の授業は必ず出席すること。履修希望者多数の場合、抽選実施する場合がある。
- ・「コンピュータ演習」が単位認定済みであることを前提として授業を進める。
- ・授業を欠席した場合、次回までに授業内容を自習すること
- ・ICT活用双方向型授業に該当する。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-3 コミュニケーション力	AIやデータサイエンス分野における今日の状況を理解する。保育現場に必要なICTスキルを身につける
◎	1-4 情報を収集、処理、発信できる力	Excelでデータベースを活用できる。簡単なデータ分析ができる。伝わるグラフを作成できる。
		生成AIを使って画像、文章等を作成・編集できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	0
小テスト	10
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	80
その他(取り組む姿勢)	10
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーションICTと社会の現状	【履修希望者多数の場合、抽選を実施する】授業内容の説明 社会情勢(第4次産業革命、Society5.0)の理解	必要なアカウントの登録とサイト、アプリケーションの利用	45
2	社会で活用されているデータ	ビッグデータとは？	操作の確認、ビッグデータの活用事例を探索	45
3	データを読む・データを扱う(1)	データ処理に必要な関数について理解する(lookup系関数など)。	操作の確認、様々なデータを見る	45
4	データを読む・データを扱う(2)	Excelを用いたデータベースの扱いについて理解する。データ処理に必要な条件付き書式を活用する。	操作の確認、活用事例を探索	45
5	データを読む・データを扱う(3)	データベースから得られるデータの解釈について理解する。	操作の確認、活用事例を探索	45
6	データを説明する	複数のアプリケーションソフト間でデータを連携させる。データから読み取れたことを伝える方法を考える。	操作の確認、活用事例を探索	45
7	データの活用	園児データをサンプルを例にデータベースの活用に関する総合的な課題に取り組む。	操作の確認、活用法を考える	45
8	データを守る上での留意事項	データから読み取れることと「推測」の違い、データの扱いに関する倫理的な姿勢、AIの限界について理解する。AIの学習データと個人情報保護について考える。	操作の確認、活用事例を探索	45
9	データ・A I 活用の動向	AIの活用の現状と課題。対話型生成AI、画像生成AIに関する基礎的理解。	事前に文献、インターネット等でAIの利活用について調査する	45
10	現代社会におけるA I 利用	ビジネス、教育現場におけるAI利用。オフィスソフトにおけるAIの活用	AI活用を意識した文書、スライドを作成する	45
11	AI利活用のための技術(1)	ベクターグラフィックスソフト(Illustrator)の基礎的操作と画像生成AI機能の活用。	操作の確認、生成AIを活用したイラストの作成	45
12	AI利活用のための技術(2)	ラスターグラフィックスソフト(Photoshop)の基礎的操作と画像生成AI機能の活用	操作の確認、生成AIを活用した案内チラシの作成	45
13	動画編集と動画生成AIの活用(1)	動画編集ソフトの基礎的操作とAIツールの利用	動画編集の事例を見る	45
14	動画編集と動画生成AIの活用(2)	動画編集ソフトの基礎的操作とAIツールの利用	操作の確認、課題に取り組む	60
15	まとめ	総合実践例に取り組む。	操作の確認、課題に取り組む	45

科目名	コンピュータ応用演習			科目ナンバリング	C3012LYZ-012
担当者氏名	稲富 恭, 佐竹 邦子			担 当 形 態	複担
授業方法	演習	単位・必選	2 ・ 選	開講年次・開講期	1 年 ・ II 期

《授業の概要》

保育の現場へのICT(コンピュータ等を用いた情報通信技術)の導入が急速に進行しており、ICTを用いた業務の効率化、データの利活用はますます重要度を増している。またビッグデータ、AIといった技術の利用により、より園児の個性を大事にした保育が可能となっている。本授業では社会状況に応じたデータやAIの利活用について学ぶほか、各種アプリケーションソフトについても「コンピュータ演習」で学んだことをベースに習熟度を高めデータの利活用ができるようになることを目指す。さらにAIやデータサイエンスは協調、対話、他者理解といったコミュニケーションと深く関連しており、建学の精神である「和」の実践的手段であることを理解する。

《テキスト》

テキストは使用しない。適宜プリントを配布する。

《参考図書》

適宜授業内で示す。

《授業外学習》

【予習】「コンピュータ演習」(履修済)で学んだ内容を復習する。前回授業の操作のポイントをまとめる。

【復習】授業で示された課題に取り組む。また授業内で学んだ内容を繰り返し行い、習熟度を高める。何度も繰り返し、操作に慣れることが重要である。できるだけコンピュータに触れる時間を持つようにすること。

《学習状況・理解度の確認》

- ・提出課題については個別にコメント・指導を行う。
- ・基本的な知識について小テストを数回実施する。
- ・複数の提出物についてはプレゼンテーション・講評を行う。

《備考》

- ・1回目の授業は必ず出席すること。履修希望者多数の場合、抽選実施する場合がある。
- ・「コンピュータ演習」が単位認定済みであることを前提として授業を進める。
- ・授業を欠席した場合、次回までに授業内容を自習すること
- ・ICT活用双方向型授業に該当する。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-3 コミュニケーション力	AIやデータサイエンス分野における今日の状況を理解する。保育現場に必要なICTスキルを身につける
◎	1-4 情報を収集、処理、発信できる力	Excelでデータベースを活用できる。簡単なデータ分析ができる。伝わるグラフを作成できる。
		生成AIを使って画像、文章等を作成・編集できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	0
小テスト	10
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	80
その他(取り組む姿勢)	10
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーションICTと社会の現状	【履修希望者多数の場合、抽選を実施する】授業内容の説明 社会情勢(第4次産業革命、Society5.0)の理解	必要なアカウントの登録とサイト、アプリケーションの利用	45
2	社会で活用されているデータ	ビッグデータとは？	操作の確認、ビッグデータの活用事例を探す	45
3	データを読む・データを扱う(1)	データ処理に必要な関数について理解する(lookup系関数など)。	操作の確認、様々なデータを見る	45
4	データを読む・データを扱う(2)	Excelを用いたデータベースの扱いについて理解する。データ処理に必要な条件付き書式を活用する。	操作の確認、活用事例を探す	45
5	データを読む・データを扱う(3)	データベースから得られるデータの解釈について理解する。	操作の確認、活用事例を探す	45
6	データを説明する	複数のアプリケーションソフト間でデータを連携させる。データから読み取れたことを伝える方法を考える。	操作の確認、活用事例を探す	45
7	データの活用	園児データをサンプルを例にデータベースの活用に関する総合的な課題に取り組む。	操作の確認、活用法を考える	45
8	データを守る上での留意事項	データから読み取れることと「推測」の違い、データの扱いに関する倫理的な姿勢、AIの限界について理解する。AIの学習データと個人情報保護について考える。	操作の確認、活用事例を探す	45
9	データ・A I 活用の動向	AIの活用の現状と課題。対話型生成AI、画像生成AIに関する基礎的理解。	事前に文献、インターネット等でAIの利活用について調査する	45
10	現代社会におけるA I 利用	ビジネス、教育現場におけるAI利用。オフィスソフトにおけるAIの活用	AI活用を意識した文書、スライドを作成する	45
11	AI利活用のための技術(1)	ベクターグラフィックスソフト(Illustrator)の基礎的操作と画像生成AI機能の活用。	操作の確認、生成AIを活用したイラストの作成	45
12	AI利活用のための技術(2)	ラスターグラフィックスソフト(Photoshop)の基礎的操作と画像生成AI機能の活用	操作の確認、生成AIを活用した案内チラシの作成	45
13	動画編集と動画生成AIの活用(1)	動画編集ソフトの基礎的操作とAIツールの利用	動画編集の事例を見る	45
14	動画編集と動画生成AIの活用(2)	動画編集ソフトの基礎的操作とAIツールの利用	操作の確認、課題に取り組む	60
15	まとめ	総合実践例に取り組む。	操作の確認、課題に取り組む	45